

アルペンスキー

スペシャルオリンピックス(SO)のアルペンスキー公式スポーツルールは、全てのスペシャルオリンピックスアルペンスキー競技において適用される。国際的なスポーツ組織として、スペシャルオリンピックスは国際スキー連盟（FIS）のアルペンスキールール（参照：<http://www.fis-ski.com/uk/rulesandpublications.html>）を基に、スペシャルオリンピックス公式スポーツルールを定めた。スペシャルオリンピックスのアルペンスキー公式スポーツルールおよびスポーツルール第 章 総則と矛盾する場合以外はFISおよび国内アルペンスキー連盟（NGB）のルールが採用される。矛盾する場合は、スペシャルオリンピックスのアルペンスキー公式スポーツルールが適用される。

参考: スペシャルオリンピックス スポーツルール第 章 総則

http://www.son.or.jp/pdf/athlete/program/rule/general_rules.pdf

行動規範、トレーニング基準、医療および安全面の必要条件、ディビジョニング、表彰、上位レベルの競技会への進出条件とユニファイドスポーツを参照してください。

セクションA - 公式種目

以下はスペシャルオリンピックスにおける公式種目の一覧である。

これらの種目は、あらゆる能力のアスリートに競技する機会を提供することを目的としている。各国プログラムは提供する種目、および必要に応じて、それら種目の運営方針を決定することができる。コーチは、それぞれのアスリートの技術と興味に応じて、適切なトレーニングの提供と種目を選択することに責任がある。

1. 10m 歩行
2. グライド
3. スーパーグライド
4. 初級スーパーG
5. 初級ジャイアントスラローム
6. 初級スラローム
7. 中級スーパーG
8. 中級ジャイアントスラローム
9. 中級スラローム
10. 上級スーパーG
11. 上級ジャイアントスラローム
12. 上級スラローム

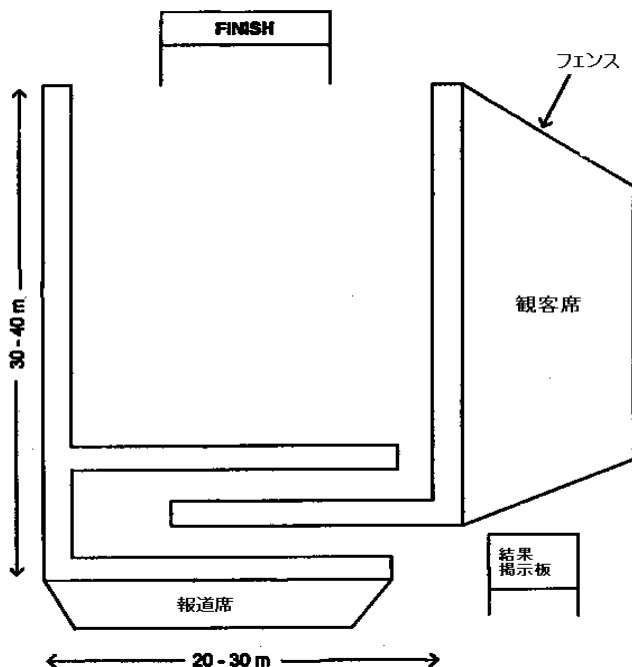
セクションB - 競技設備

スロープは、長さ、幅、それに難度においてスキーマーの能力にあったものでなければならない。全ての競技と練習用の施設は安全でなければならない。

可能な限り競技場や練習会場まで直接、または近くまでリフトが利用できるようにする。全てのアルペンスキー競技のゴールエリアは、競技者が安全に停止できるだけの十分な広さがなくてはならない。可能な限り、全てのゴールエリアは観客が中に入れないようにフェンスを設置しなくてはならない。(下記の図：フィニッシュ スタジアムを参照)

暖をとる施設はスロープと駐車場から行きやすくなくてはならない。この施設は悪天候の場合にスペシャルオリンピックス関係者一同を収容するだけの広さがなくてはならない。ボランティアの登録はこの施設内にて行う。表彰式は、悪天候の場合のみこの施設内にて行う。

図：フィニッシュ スタジアム



駐車場は、競技のボランティア、スペシャルオリンピックスのスタッフ、コーチとアスリートを収容する為に十分なだけの広さがなくてはならない。また、緊急用の車両が入れるようにしておかなければならない。

補助設備

- a. スキーの保管室
- b. スキーの準備室
- c. スペシャルオリンピックスの用具の保管室
- d. スキーレンタル
- e. コーチ用の会議室
- f. 以下のための屋根のある施設
 - 1) 審判団の会議室
 - 2) 競技の計時と計算
 - 3) スタートエリア

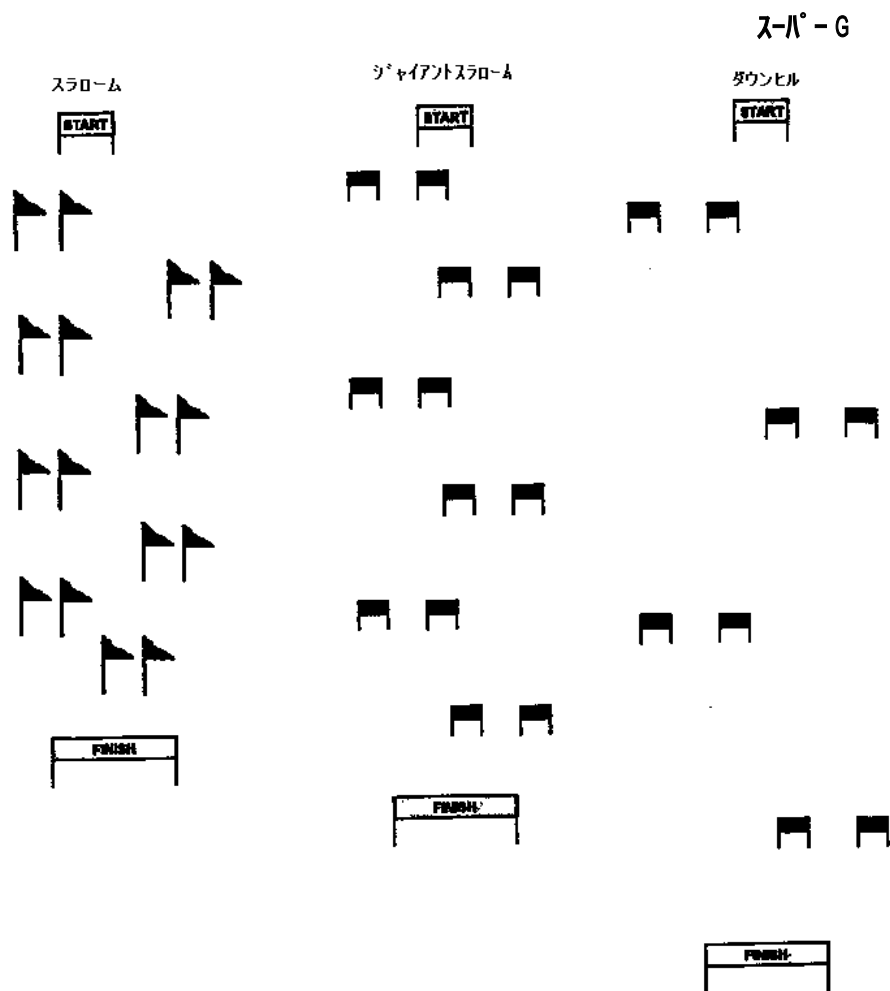
セクションC - 用具

1. アルペン種目の全ての能力レベルの公式練習および競技会において、全ての前走者と競技参加者はアルペンスキーに適したヘルメットを着用しなければならない。ヘルメットを選ぶ時には、知識のあるアルペンスキー競技のコーチやスキーショップの店員の助言を受けた方が良い。
2. スキー
 - a. ビギナーと初級のアルペンスキーのアスリートは100cm以上のスキーを使用してもよい。
 - b. アルペンスキーのアスリートは競技において身体的障害に対応するために130cm以下のスキー（例：アウトリガー）を使用してもよい。
 - c. 審判員は短めのスキーの使用について、更に考慮する権利がある。
3. 座位のスキーヤー： 固定されたアウトリガー付きのバイスキーを使用するアスリートは、補助者と共に滑らなければいけない。アスリートは、もし彼らの補助者が最初と最後のゲート以外でバケットシートを持った場合失格となる。その他の身体障害のあるスキーヤーは国際パラリンピック委員会（IPC）<http://www.ipc-alpineskiing.org>における座位、視覚障害、立位それぞれの競技者（スキーヤー）のルールに従って、競技を行う。これらのアスリートは、スペシャルオリンピックスのアルペンスキールールに基づいてディビジョニングされる。
4. スキー場では全ての種目に対して十分にスロープを整備し、設備の準備をしなくては

ならない。雪の状態が悪い時はコースを維持するための道具（レーキ、シャベル、雪を固めるための化学薬品）が使われる。また、これらの道具はスキー場に備えておく。

5. スラローム用のゲートを作るには、滑走面（斜面）を横切って4～6mの間隔に2本のスラロームポールを立てる。ジャイアントスラロームとスーパーG用では間に可倒式の2本のポールを1セットとし、2セットで1つのゲートを作る。ジャイアントスラローム用では、回転側のポールと外側のポールとの距離は4～8mとする。スーパーG用では、距離を8m以上にする。ジャイアントスラロームとスーパーGにはパネルが使われる。スタートゲートの次の第1ゲートは、常に赤色でなくてはならない。

コース レイアウト



6. コース設定する者が雪の中にポールを立てるためのドリルやバールを用意しておく。

7. スタートとフィニッシュエリアは十分に保護されていなくてはならない。柵またはポップ柵が使われる。
8. 安全上の理由で、可能な限りコースには柵をして、一般のスキーヤーとは独立した競技設備だと分かるようにしておく。その他の柵、防雪柵、および保護用のパッドはスキー場の責任とする。
9. スタートとフィニッシュには旗を使う。
10. 可能な限り、バックアップ装置のついた電気計時器を使う。これが出来ない時は、手動操作機器で計時して構わない。ゲート審判は2分間ルールのための2分間計時に責任を持つ。(2分間ルールを参照)
11. 次のような内容の放送をする。
 - a. 開催中の競技と結果のアナウンス
 - b. 競技種目の実況アナウンス
12. インフォメーションの掲示
 - a. スタート順の掲示：アスリートのスタート順、ビブナンバー、他のインフォメーションをスタート地点に掲示する。
 - b. 結果(タイム)の掲示：フィニッシュエリアの後方に、アスリートの名前、スタート順、ビブナンバーを表にして、結果(タイム)を掲示する。
 - c. 一般インフォメーションの掲示：一般インフォメーションと告知は、競技施設、表彰場、および宿舎のなるべく近くに掲示する。
13. スキー場ではスキーパトロールが競技におけるあらゆる医療上の必要性と処置を監視できるようにしておく。医療ボランティアが参加する場合は、医療処置が上手く行われるようにスキー場について前もって十分に知ってもらうようにする。ほとんどのスキー場において、このことはスキー場の責任となる。
14. 競技中のスキー装具の修理道具は、公認のメンテナンス担当者によって使用される。
15. 競技会場、医療従事者、ボランティアの調整者、そして競技役員間の情報伝達システムが適切でなければならない。競技会場はその他の通信手段を持っても良い。

場合によっては競技や種目の役員をはっきりさせることが有効であり、また必要でもある。
大会本部は腕章やウインドブレーカーを支給するとよい。

セクションD - 役員

1. アルペン審判団
 - a. 審判員
 - b. 競技責任者
 - c. コース責任者
 - d. スタート審判員
 - e. フィニッシュ審判員
 - f. アシスタント審判員

2. 役員 - 審判員以外の役員
 - a. 旗門責任者
 - b. 計時計算責任者
 - c. レースセクレタリー
 - d. 医療責任者
 - e. インフォメーション責任者
 - f. 競技用具責任者
 - g. コースセッター
 - h. コースセッターアシスタント

3. ボランティア要員
 - a. 旗門員
 - b. 前走者
 - c. コース進行係：世話役
 - d. コース係
 - e. 計時計算係
 - f. 医療/スキーパトロール
 - g. 走者
 - h. スタートとフィニッシュのアシスタント
 - i. アナウンサー

セクションE - 競技ルール

1. 一般的なルールと修正

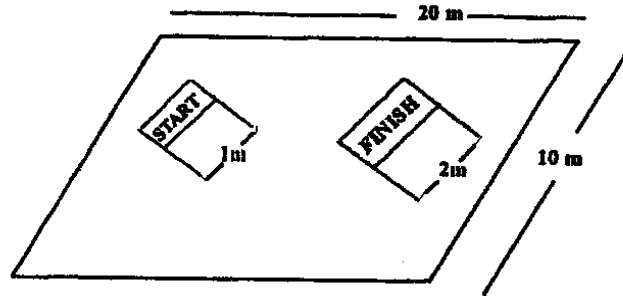
- a. FISルールによって、スペシャルオリンピックスのアスリートおよび競技指導者は、世界規模で標準化されたスキー競技を行うことができる。しかし、FISのルールはかなり高度な技術を獲得している競技者のみが参加するような競技会を執り行うために書かれていることを忘れてはならない。スペシャルオリンピックスのアルペンスキーのアスリートにおいて、そのように高度な技術を獲得しているものの数は極めて少ない。それゆえ、全てのスペシャルオリンピックスアスリートの能力にあったアルペンスキーコースを設定することが適切である。FISの規定（ゲートの数、垂直のゲートの組み合わせ、高低差）は競技能力の低いアスリートにとってはあまりにも険しくて長すぎる地形にコースを設定している。スペシャルオリンピックスのアルペンスキーコースは、我々のアスリートに合わせてFISのルールを修正している。ただし、コース設定の規則、すなわちゲートの数、ポールから折り返しポールまでの距離、スタートとフィニッシュエリアに必要なものは、主としてFISルールと同じである。スペシャルオリンピックス冬季競技の公式ルールに記載されているように、特定の修正ルールはFISの規則と置き換えられる。
- b. 初級レベルの種目に参加する為に必要な技術をマスターしていないアスリートは、10m 歩行、グライド、スーパーグライドの種目に参加する。
- c. ディビジョニング
- 1) コーチはスペシャルオリンピックス冬季競技の公式ルールの第 1 章の中にある、ディビジョニングと年齢別グループの項を確認しておく。
 - 2) ビギナーのスキーヤーは申し込みをした種目でディビジョニングされる。
 - 3) 初級、中級、上級のスキーヤーは能力に応じたレベルで修正したジャイアントスラロームのコースで 2 回試技を行い、早い方のタイムを競技するディビジョニングのために使う。競技開催側のスケジュールが許す限り、ディビジョニングのタイムトライアルは種目ごとに行われる。それぞれのクラスでの滑走は、試走のタイムが一番早かったものからスタートし、一番遅かったものが最後となる。
- d. コースの設定：競技能力の低い種目（10m 歩行、グライド）におけるコースは同じ色のゲートを使う。スーパーグライドには青色と赤色のゲートを交互に使う。

- e. スタート地点：全てのスタート地点は、アスリートがリラックスした姿勢で用意に立てるようにしておくこと。この地点に楽に行くことができるようにすると共に、一般のスキーヤーの流れからこの地点を守るように配慮する。
- f. 2分間ルール：競技の間に競技者がコースの線から外れた場合（転倒、旗門不通過と回り損ね、スキーが外れる等）競技者はコースに戻るために、脱線した時点より2分間の猶予が与えられる。2分以内にコースに戻れなかった場合や何らかの援助を受けた競技者は失格となる。失格は違反が起こった場所に一番近いゲートに配置された旗門員のゲートカードによって決定される。旗門員は責任を持って2分間を計る。
- g. スタートの合図：スペシャルオリンピックスのスキー種目の全てのレベルにおいて、スタートの合図は次のようにする。「5・4・3・2・1・GO」計時はアスリートの前足のブーツがスタートラインを越えた時もしくは、電気計時標識が動き出した時から始まる。
- h. ゲートライン：スーパーG とジャイアントスラロームにおいて、間にパネルのついた2本のポール2セットからなっているゲートで、雪面上の2本の内側のポールを結ぶ最短のラインがゲートラインである。スラロームにおいては雪面での回転側のポールと外側のポールを結ぶ最短のラインがゲートラインである。
- i. 正しい通過：競技者のスキーの両先端と両足がゲートラインを横切った時に、ゲートを正しく通過したものとする。もし競技者が過失なしに（スラロームポールを踏まずに）片方のスキーを失った場合、残っている片方のスキーの先端と両足がゲートラインを越さねばならない。スタートとフィニッシュラインについてもゲートラインと同様とする。
- j. 競技者が自分のスキーの最先端と両足がゲートラインを越える前にポールを垂直の位置から動かした場合は、スキーの両端と両足は元のゲートライン（雪に印をつける）を越さなければならない。

2. ビギナーのアルペンスキーの種目

a. 10m 歩行

1) 図



2) 準備

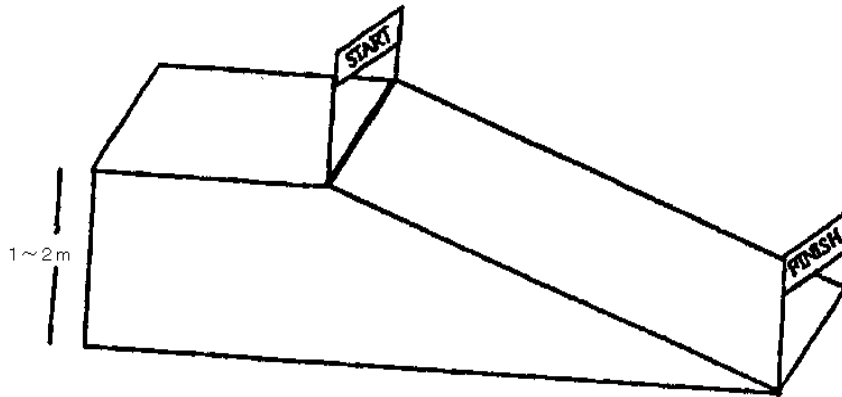
- この種目のために横 20m、縦 10m の平坦な場所を用意する。
- 本部と登録場所になるべく近い場所にした方が良い。
- 1m 間隔で 2 本のポールを立て、その間の雪上にスタートラインを引く（色をつける）。
- スタートから 10m 離れた所に 2m 離して 2 本のポールを立て、その間の雪上にフィニッシュラインを引く。

3) レースの進行

- アスリートはスタート地点で両方の靴の前方がスタートラインに一直線になるように立つ。アスリートはスキーのストックを持って持たなくても良い。
- アスリートは「5・4・3・2・1・GO」の合図でスタートを切る。もしアスリートが上手くスタートできないときは、スタート審判員はアスリートが前方に動き出せるように援助してもよい。
- アスリートの前足のブーツがスタートラインを横切ったら計時を始める。
- アスリートはスタートからフィニッシュへ歩いていく。
- アスリートの前足のブーツがフィニッシュラインを横切ったら計時を終える。

b. グライド

1) 図



2) 斜面の設定（初心者用の斜面は本部に近いところにする）

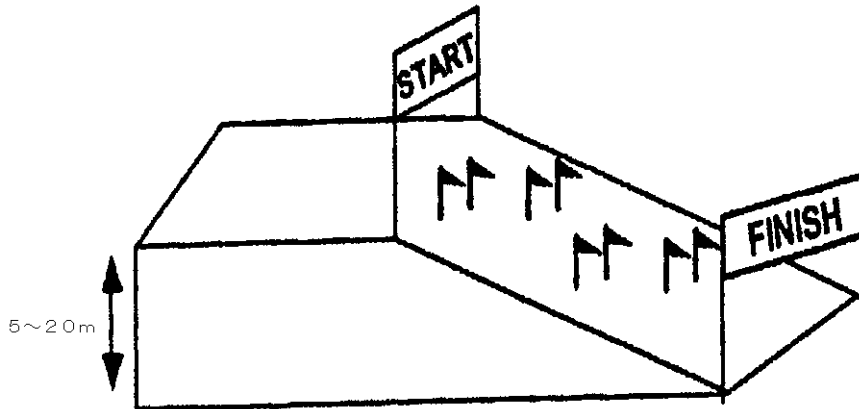
- a) 斜面の高低差は1~2mにする。
- b) 斜面の全長は10~15mにする。
- c) 斜面はなだらかでフィニッシュ地点は平坦になるようにする。
- d) スタート地点は平坦にし、平坦な部分が斜面にかかる点にスタートラインを引く。
- e) スタートラインを挟んで1mの間隔に2本のポールを立てたものをスタートゲートとする。
- f) フィニッシュラインを挟んで4mの間隔に2本のポールを立てたものをフィニッシュゲートとする。なるべくフィニッシュ用の旗を使用すること。

3) レースの進行

- a) アスリートはスタート地点で両方のブーツの先端がスタートラインにくるように立つ。アスリートはスキーのストックを持っても持たなくても良い。
- b) アスリートは「5・4・3・2・1・GO」の合図でスタートを切る。もしアスリートが上手くスタートできないときは、スタート審判員はアスリートが前方に動き出せるように援助してもよい。
- c) アスリートの前足のブーツがスタートラインを越えるときに計時は開始する
- d) アスリートはスタートからフィニッシュまで滑る。
- e) アスリートの前足のブーツがフィニッシュラインを越えるときに計時は終了する。

c. スーパーグライド

1) 図



2) 斜面の設定（初心者用の斜面は本部近くにする）

- a) 斜面の高低差は 5～20m とする。
- b) コースの幅は最低 25m とする。
- c) コースの全長は 50～100m とする。
- d) 滑走面はなだらかで凸凹や逆斜面がないようにする。
- e) コースの全面をリズムカルに連続してプルークボーゲンできるように 4～6 のゲートを設定する。
- f) スタート地点は平坦にし、平坦な場所が斜面にかかる点にスタートラインを引くか計時バーを設置する。スタートラインの幅は 1m 以内とする。
- g) フィニッシュ地点は少なくとも幅 4m にし、アスリートが平坦な場所に入ってこられるようにする。

3) レースの進行

- a) アスリートは「5・4・3・2・1・GO」の合図でスタートを切る。
- b) アスリートの前足のブーツがスタートラインを横切るかアスリートの足が計時バーを作動させた時に計時を始める。
- c) アスリートの前足のブーツがフィニッシュラインを横切ったら計時を終える。

4) スキルレベル グライディング・ウェッジスキーヤー

コースの設計

3. 初級者用のコース設計

| 種目 | ゲートの数 | 肯定差 | コースの幅 | クラス |
|-------------|-------|--------|-------|-----|
| スラローム | 5～15 | 15～50m | 30m | 初級者 |
| ジャイアントスラローム | 5～15 | 20～70m | 30m | 初級者 |
| スーパー-G | 5～12 | 25～70m | 30m | 初級者 |

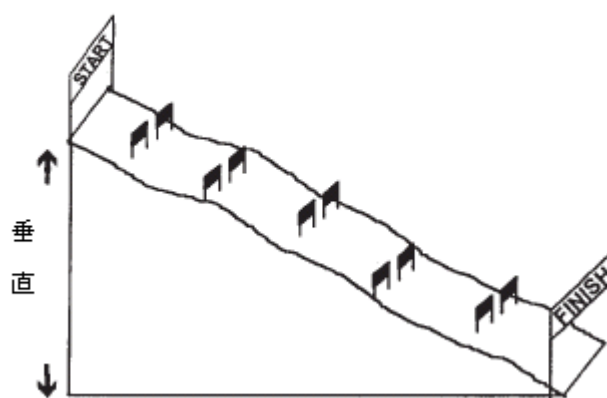
4. 中級者用のコース設計

| | | | | |
|-------------|-------|---------|-----|-------|
| スラローム | 15～30 | 30～100m | 30m | 初/中級者 |
| ジャイアントスラローム | 15～30 | 50～150m | 30m | 初/中級者 |
| スーパー-G | 10～20 | 50～200m | 30m | 初/中級者 |

5. 上級者用のコース設計

| | | | | |
|-------------|-------|----------|-----|-----|
| スラローム | 20～45 | 60～200m | 30m | 上級者 |
| ジャイアントスラローム | 20～40 | 100～300m | 30m | 上級者 |
| スーパー-G | 15～35 | 150～350m | 30m | 上級者 |

垂直斜面図



6. 種目の修正

a. スラローム・ジャイアントスラローム

- 1) スラロームとジャイアントスラロームのレースは、2回の計時滑走からなる。
それぞれ2回のタイムを合計した結果が表彰の対象になる。
- 2) 審判団の判断により、2回目の滑走時はコースが修復される。
- 3) スラロームとジャイアントスラローム種目において、アスリートの1回目の滑走のタイムがそのディビジョンでの2回目の滑走のスタート順を決める。各ディビジョンの1回目の滑走で遅かったものが最初にスタートし、一番速かったものが最後にスタートする。失格者も2回目の滑走をしても良いが、その場合はそのディビジョンの最後に滑走する。

b. スーパーG

- 1) 競技開催側は競技するアスリートの能力に合わせてスーパーG競技の難易度を変更しても良い。
- 2) 全てのアスリートは競技の前に一度だけ同じコースを練習のために試走しなければならない。
- 3) 競技開催側は試走タイムを計時しても良いが、これは競技のスタート順には影響しない。
- 4) スーパーG競技は計時された1回の滑走によりなる。

<スペシャルオリンピックスのスポーツプログラムを実施するに当たっての留意点>

スペシャルオリンピックスの正式なスポーツプログラムとして活動する場合には、事前に最寄りの地区組織事務局、またはスペシャルオリンピックス日本事務局にご連絡ください。